

平成22年度第1回九州ブロッククラブミーティング2010 開催報告

日時：平成22年7月3日（土） 13:00～16:30

会場：石垣市民会館（沖縄県石垣市）

平成22年7月3日（土）に「第1回九州ブロッククラブミーティング2010」が沖縄県石垣市民会館において開催されました。

このクラブミーティング2010には、創設支援クラブ63クラブ108名の他、地方企画班員4名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー17名（内1名地方企画班員兼務）、事例発表者3名、オブザーバー3名、総勢135名が参加しました。事例発表では、「山間部・離島におけるクラブづくりの現実」というテーマで、①水上元気クラブ（熊本県水上村）、②下地総合型スポーツクラブ（沖縄県宮古島市）の2クラブに、それぞれ発表して頂きました。



また、パネルディスカッションにおいては、「これからの総合型クラブづくりのポイントを探る!」というテーマで、野島弘宣氏（熊本県体育協会クラブ育成アドバイザー）、永田智和氏（鹿児島県体育協会クラブ育成アドバイザー）、そして開催県のクラブ育成アドバイザーである慶田花英太氏の3名の若手アドバイザーにご登壇頂き、コーディネーターの質問に答えて頂くというQ&A形式のディスカッションを行いました。

以下では、事例発表の概要とパネルディスカッションの内容について報告します。

【1】 事例発表の概要報告

開催地の石垣市も離島であります。この事例発表のセッションでは、水上元気クラブの事務局である那須裕平氏とクラブマネジャーの甲斐啓志氏に、そして下地総合型スポーツクラブの事務局長である洲鎌菜保子氏にそれぞれご登壇頂くとともに、地方企画班員の土谷忠昭氏にコーディネーターをお願いして、九州ブロックの特色でもある山間部・離島におけるクラブづくりの現状やクラブ運営上の課題等について情報交換をしました。



★ 水上元気クラブ（山間部） ★

水上村は、熊本県の東南端に位置し、宮崎県境とも接しており、92%が林野という山村地域です。村全体の人口は約2,600人で、小学生131人（全人口の

5%), 65歳以上 929人(全人口の35.7%)であり, 少子高齢化の進んだ地域でもあります。子どもたちを取り巻くスポーツ環境は深刻で, スポーツ少年団もなく, スポーツ教室などに参加する習慣もない地域です。そうしたスポーツ環境を少しでも良くしていこうという観点から, 総合型地域スポーツクラブづくりに取り組み, 「子どもたちの健全育成」「高齢者の健康と生きがいづくり」「地域ぐるみで楽しむクラブ」といったクラブ理念を掲げて, 「動かそう!ココロ!カラダ!」をキャッチフレーズにするとともに, 総合型地域スポーツクラブというネーミングからスポーツを外し, 子どもたちと高齢者, 及び水上村を元気にしたいという熱意を込めて, 「水上元気クラブ」というクラブ名を付けました。

また, このクラブは「行政と各種団体と一体となったクラブづくり」が特徴で, ①行政の協力として「従来の生涯学習教室のクラブでの開講による全施設使用料の免除」「各種研修・大会等での教育委員会のバスの無料での使用」を, ②各種団体(体育指導委員, 体育協会, 各運動部の愛好者)からの協力として「各教室でのボランティア的指導の実施」「イベント等開催時の役員の協力」を, そして③県外・村外への協力として「学童教室の県外・村外の子どもたちの受け入れ」を行っています。このため, 安い会費で運営することができます。

さらに宮崎県境と隣接していることから, 県外・村外からの入会も認めています。活動内容もスポーツだけではなく, 地域の自然を生かした事業も実施しており, 国指定天然記念物である, 幻のチョウ「ゴイシツバメシジミ」の鑑賞会や保護活動もその一つです。

クラブ運営面では, 協賛店との協力関係を確立し, 「協賛店制度」を導入しています。クラブマネジャーの甲斐氏は商工会青年部長でもあり, 商工会の会議でも積極的にクラブの意義を説明し, 会員のメリットを考えた「協賛店制度」の導入で, 協賛店と会員との間にWin-Winの関係が成り立っています。

まだまだ会員数も125名程度ですが, 5年間で200名まで伸ばすという夢に向かっていきます。山間部の小さなクラブだからこそできるクラブ運営や経営努力を行い, <人づくり・地域づくり>の観点を大切にしながら, 「子どもたちや高齢者」を中心に会員が喜ぶクラブづくりを目指しています。

★ 下地総合型スポーツクラブ(離島) ★

「宮古島市」は, 平成17年10月に旧5市町村が合併して新しく誕生しました。新市を構成する島々は大小6つの島です。総人口54,932人, 世帯数23,878であり, 3つの総合型クラブが創設されています。また, 宮古島では, 様々なスポーツイベントが毎月のように開催されているので, スポーツ施設等もかなり整備されています。

宮古島市の下地地区は, 人口約3,000人の地区で, 平成18年9月に, 体育指導委員と体育協会を中心に創設されたクラブですが, 行政との協働もある程度なされています。総合型クラブづくりでは, 地域でのスポーツイベントやスポーツ活動が結構盛んに行われているため, 総合型クラブの必要性に対する理解や合意形成に苦労をしました。高齢者が多い地区であるため, クラブスタッフの募集に

も苦勞をしました。現在は、中心となるスタッフも4名になりました。

また、実施している事業もまだまだ少なく、会員も130名程度であり、高齢者のグランドゴルフを中心とした会員が大半を占めていますが、最近では子どもの太鼓教室を新規に開始しました。プロのアスリートを活用しての教室（バレーボール・陸上教室）やリトミック教室、筋力ストレッチ教室、水中ウォーキング教室なども苦勞しながら開設しています。さらに、下地地区の大運動会では、婦人会と協力して「昼食づくり」にも挑戦し、クラブの理解を得る努力も積極的に行っています。

クラブスタッフは、「すべての人々がスポーツの楽しさを味わうためには？」
「すべての人がスポーツに参加するためには？」
「どうすればクラブ事業に人が集まるのか？」など、常に「どうすれば？」と日々悩み考えながら各組織との連携を図っています。

総合型地域スポーツクラブは、「みんなのスポーツ環境づくり」です。あまり「総合型」というイメージにとらわれることなく、「地域スポーツクラブ」「スポーツは一つ」という気持ちで、また、クラブに行けば「ホッとする」といわれるような空間づくりに愛情を注ぎながら努力すれば、住民に愛されるクラブづくりにつながると信じて努力しています。本当に小さなクラブですが、こんなクラブづくりもあると思って頂き、皆さんがクラブづくりに頑張ってもらえればと思いながら発表を終わります。

このような事例発表に対して、フロアーから以下のような質問が出されました（〔 〕内はクラブの回答です）。

Q1. 既存クラブとの連携方法は [A1. ママさんバレーの教室等で子どもの面倒をクラブで見ることになりました。]

Q2. 県外の参加者への広報活動は [A2. ポスター、3ヶ月カレンダー等で呼びかけをしています。県外については、学童のみです。]

Q3. 文化的な種目は [A3. スポーツという名前を付けずに幅広い活動ができるようにしました。]

Q4. 教育委員会のバス利用について [A4. 日々の活動は保護者でないと困難です。イベント・試合時は教育委員会の契約運転手を利用しています。]

Q5. 協賛店の方法 [A5. お互いにメリットを感じている。]



【2】 パネルディスカッションの報告

このパネルディスカッションでは、野島弘宣氏（熊本県体育協会クラブ育成アドバイザー）、永田智和氏（鹿児島県体育協会クラブ育成アドバイザー）、及び開催県のクラブ育成アドバイザーである慶田花英太氏の3名の若手パネリストにご登壇頂き、地方企画班長の中西純司氏の質問に回答して頂くという形式で、これからの総合型クラブづくりのポイントや課題等について各パネリストから提言して頂きました。

コーディネーターからの具体的な質問内容は以下に示す通りですが、パネリストには「正解」を求めるのではなく、いろんな考え方を示して頂くよう、進行上の創意工夫をしてみました。紙面の都合上、各パネリストの回答内容については割愛しますが、三者三様の考え方が出され、フロアとのディスカッションも円滑に進んだように感じました。



Q1. 「うちの町はスポーツが盛んな町だから、総合型クラブなんていらぬよ」といった反対意見がよく出されますが、そうした住民の方々に総合型クラブづくりを勧める場合、どのような説明をしているのか、教えてください。

Q2. Q1とも関連するかもしれませんが、総合型クラブの「総合」って何を意味しているのでしょうか？「総合」ってどのように理解すればよいのでしょうか？

Q3. 地域社会における総合型クラブの存在意義（クラブ・アイデンティティ）とも関連する、クラブの「理念」はどのような方法で決めたらよいのでしょうか？

Q4. 総合型クラブづくりにおいては、学校施設や公共施設などの拠点施設の確保が重要ですが、多くの地域では施設利用に対する既存クラブ・団体等の「既得権」意識が強いため、総合型クラブが施設をうまく利用できないという状況が見られます。このような状況を打破するためには、どのような対策が必要だと思いますか？

Q5. 総合型クラブに限らず、地域のクラブというものは「日常生活圏」ごとに創っていくもので、町に1つ創っておしまいではないと思いますが、なぜ日常生活圏で創る必要があるのでしょうか？また、日常生活圏とはどのような範囲を言うのでしょうか？

Q6. 地域社会の優れたところは、異質で多様な人たちが暮らし、いろんな組織・団体や制度があることだと思いますが、そうした人たちや組織・団体等と良好な関係を創り上げ、総合型クラブのコミュニティ・パワー（地域力）を高めていくためには、どのような活動が必要であると思いますか？

Q7. 設立済みの総合型クラブを見てみると、その多くはこれまでに運動やスポーツをしてこなかった人や中高年層の方々を会員として増やしているようですが、子どもたちにとっては競技志向のクラブやチームがないと魅力を感じないと思います。競技志向のクラブ・サークルやチームを増やしていくにはどのようにしたらよいのでしょうか？

Q8. 受益者負担の金銭面を強調する必要はありませんが、会員みんなが参加し楽しめるクラブとして存続・発展していくためには、たとえ補助金があったとしても、会費や参加費等をどのように設定すればよいのでしょうか、その設定方法について教えてください。

Q9. 多くの総合型クラブでは、スポーツ教室やスポーツ大会・イベントなどのスポーツプログラムの提供を「スポーツ事業」として実施しているようですが、

今後、総合型クラブが発展していくためには、どのようなスポーツ事業を計画すればよいのでしょうか？

Q10. 総合型クラブは、住民による「自主運営」を基本とする、「一人二役」のクラブと言われますが、こうした自主運営の体制を確立していくためには、具体的にどのような条件や活動が必要であると思いますか？

Q11. 「総合型地域スポーツクラブに関する有識者会議」（平成 21 年 8 月 12 日）は、今後の総合型クラブ振興のあり方として 7 つの提言を行っていますが、クラブ育成アドバイザーの立場から考えて、これからの総合型クラブ振興をより一層推進していくためには、行政・体協（国・都道府県等）はどのような方策を展開していく必要があると思いますか？

【3】 まとめ

事例発表では、九州ブロックの特色を生かして、山間部・離島におけるクラブづくりについて発表して頂きましたが、各クラブが持つ課題は同じような気がしました。しかし、たとえ小さくとも、クラブとしてその地域に合った、地域住民のニーズを大事にしたクラブ活動をすれば、住民から愛されるクラブへと成長することが分かりました。創設準備中のクラブの方々も、どうかこの 2 つの事例を参考にしながら創設活動に自信を持って、一部の人たちだけで「変える」ではなく、みんなが「変わる」ことを信じて努力して下さい。

翻って、パネルディスカッションでは、総合型クラブづくりに必要なポイント、もしくは総合型クラブづくりでは必ず直面する課題・問題等について、Q&A 形式でディスカッションを行いました。今回は、各パネリストの示唆に富む考え方については割愛させて頂きましたが、現在、総合型クラブづくりに携わっておられる方々もみんな一緒になって、上記 11 の質問内容に対して、その解決策を考えて頂ければ幸甚に存じます。

（報告；中西純司 九州ブロック地方企画班長／土谷忠昭 九州ブロック地方企画班員）